

第 13 号(2009.07.01 配信)

横浜は今年、開港 150 周年を迎えています。新聞、TV、ラジオ等々で数々のイベントが紹介、報道され、国内・海外からの観光客で賑わっています。東京に次ぐ日本第2の大都会が活気に溢れ繁盛するのは、経済的にも社会的にも嬉しいことです。

私は二十歳代の後半から十年余り横浜に住み、主に市内で仕事をしてきました。結婚したのも横浜、長男は横浜生まれです。今でも横浜にはよく出かけます。新幹線の乗降は、新横浜駅です。時折り横浜案内もやれば、友人たちと会食・歓談の機会もあり、あまり知られていない横浜を歩いたり横浜今昔を話し合ったりします。

今回は、新・旧の名所案内や食べどころ・飲みどころ等々はガイドブックやネットに任せ、住んで活動してきた私自身の体験をもとに、横浜の話を、特に開港 150 年の横浜港について記すこととします。お出かけの際の参考になれば幸いです。

初めに、「開港 150 年」というけれど、何がどうだったのかを、この際、予備知識として、正確かつ簡明に記しておきます。

ペリーが浦賀に来航して「鎖国」の扉を開いたのはご存知の通り。嘉永 6 年 = 1853 年のことでした。翌・安政元年に「日米和親条約」が締結され、5 年の経過があって、横浜開港が安政 6 年に実現します。その前年に「日米修好通商条約」はじめ「安政 5 ヵ条条約」が結ばれ、宿場だった神奈川を開港場と決めたのを、トラブルを恐れた幕府が難癖つけて、寒村だった横浜村に変えたのです。それが 150 年前の 1859 年でした。その後、生麦事件が起き薩英戦争につながり、結果的に幕府の判断は正しかったといえるでしょう。因みに、明治維新は 9 年後の 1868 年です。横浜開港は、日本大激動の真っ最中でした。

私が横浜に赴任した当時、現代の繁華とは及びもつかない、地方都市の名残りが感じられました。今はJRの、横浜駅から桜木町までの海側は、三菱重工業の造船工場群が占有していました。通勤時に桜木町駅で降りて中心部に向かうと、その起点といえる弁天橋(今も健在)の両側は、おびただしい数のはしげが並び、水上生活者の出入りが盛んでした。中心部は、今では著名な日本大通りや馬車道など、ユニークでしゃれた名前の通りが多く、新鮮な印象も受けました。通称・関内には、料亭や高級バーが競い、反面、蕎麦屋も屋台も結構あって、フトコロ具合に応じて昼・夜の飲食を楽しんだものです。

懐旧談は程々にして、その頃覚えた「横浜市歌」をご紹介します。歌詞は詩情豊か、壮大で、雄渾ささえ感じます。それもそのはず。開港 50 年に際して制定され、森鷗外の作詞、南能衛作曲。公式の「市歌」で、市の行事や市立学校では今も歌われている由。市民が誇りにしている話を、開港 150 周年の昨今、雑誌や新聞の随想欄で見掛けます。つい先日はTVで、演奏会での合唱も聴きました。

原文通りの旧仮名遣い、しかも振り仮名つきで見にくいかもしれません。上述の経緯を念頭に、ご理解、ご容認のうえ味わってお読みください。歌詞からは想定しにくいほど軽快なメロディーですが、楽譜を希望の方は、横浜市に照会すれば得られるはずです。

わが日の本は島国よ 朝日輝あさひふ海に
 連そびなり峙たつつ島々なれば あらゆるくにより舟こそ通へ
 されば港の数多かれど 此この横浜に優るあらめや

むかし思へば苦家の烟 ちりほらりと立てりし延
 今は百舟 百千舟 泊る処ぞ見よや
 果てなく栄えていくらん御代を 飾る宝も入り来る港

横浜と言えば「港」です。NHKTV は毎週日曜の朝 8 時からの「小さな旅」で 6 月 14 日に「光る海」と題して横浜港をテーマに放映しました。

特定の町や村に住む人たち - 夫婦、家族、親子などをアナが訪ね、その土地の特定の産業・産品、行事や生活、風物などにテーマを絞って話を聞き歩く、住む人々の息づかいが聞こえてくるような番組です。

「光る海」は、横浜港で仕事を続ける人たちの話。初めは親子 2 代で続くパイロット(水先き案内人)の稲垣さん。冒頭に、春先から初夏に入港が多い豪華客船が横づけされる大棧橋の風景。全長 430m もの大棧橋は、大人も子供も時間を忘れて港の全容を眺め渡し、入港船の様々な動きに目を奪われ、「行ってみたいなよその国」とつい口ずさみたくなるロマンチックな一帯です。稲垣さんは、大型船や貨物船にタグボートから乗り移り、船長に代わって乗船を構内深く誘導し、安全に接岸させる大役をこなしています。画面は、客船「飛鳥」の船長を務めてきた経歴や体験が生かされる姿を、ご本人や奥さんの話を組み入れながら映し出していきます。

また、外国船が入港すると超繁忙になるシップチャンドラー(船の雑貨商)杉野さんの仕事も港に不可欠のもの。新鮮な食材を大量に買い求める料理長たちを早朝の築地市場に連れ出して、食材選び、助言・質疑・商談を重ね、出港の数時間前に船に届けます。やはり特異なサービス経験が必要な仕事です。たった 23 分間の短い番組ですが、いつも発見や見所があり、面白い話、いい話が聞けますので、私にとっては必見の番組です。

横浜の良さ、そのポイントで結びましょう。良さは、あえて一つに絞れば、海といつも対面し解放感に溢れていること。私の国際協力への傾斜と転身も、思えば横浜在勤だったからです。とすれば、ポイントは、やはりシ フロントにあります。

横浜にお出かけの際は、大棧橋(国際客船ターミナル)行きは a Must(注)です。気宇壮大になります。大棧橋の付け根に当たる「開港広場」に面した「横浜開港資料館」に立ち寄ってみては？ 地味な会館ですが、展示資料を見ながら一巡するだけでも、開港の事情と意義が分かります。

山下公園はまさに横浜の「フロント」で爽快です。目の前の、昨年 re-open した「氷川丸」にも乗ってみてください。豪華客船としてスタートし、戦時中は病院船、戦後は引揚船など数奇な運命をたどり、歴史とロマンに満ちた船の「一生」を船内を歩いて知るのも一興以上の価値あります。

高所から港の全体像を眺望したいならば…。(1)三菱重工業の撤退後に開発された「みなとみらい」地区の「横浜ランドマークタワー」69 階の展望フロア「スカイガーデン」はアクセス良好、(2)大観覧車「コスモワールド」からの眺望も快適で楽しく、(3)今年の開港記念に合わせて「マリントワー」が再開したばかり。選択に迷います。天候や時間を考え、あらかじめ決めてお出かけを。どこもガラス張りの室内みたいですから、写真を撮るには焦点やフラッシュにご留意ください。

(注)英語圏では談話によく使う。この Must は名詞で「欠かせないもの」「ぜひ必要なこと」。大文字は単なる強調。名詞につき a(不定冠詞「一つの」)が付く。

(6 月 26 日記。国際サブロー)